

気仙沼・本吉エリア

気仙沼市 南三陸町



安波山から眺めた3年目の町並み(気仙沼市)

気仙沼・本吉エリアは、宮城県の北東部に位置し、気仙沼市、南三陸町の1市1町で構成されています。死者・行方不明者数は県全体の約2割にのぼり、全半壊の住家被害が14,000棟を超え、そのうち8割以上が全壊となる壊滅的な被害を受けました。

平成25年度は、防災集団移転先の宅地造成や災害公営住宅の整備などの被災者の生活再建に向けた事業が本格的に始まりました。高台の山林などを造成しての防災集団移転としては県内初となる南三陸町の「藤浜団地」が完成したほか、平成26年度内に災害公営住宅への入居が始まる地域もあります。また、産業面では、気仙沼市において、水産施設用地のかさ上げ工事が進み、生鮮カツオの水揚げ量が全国の3割を占め17年連続で日本一になるなど、主要産業である水産業の復興に向けた動きが本格化しています。



カツオの水揚げの様子(気仙沼市)



防災集団移転先の宅地造成が完了した藤浜団地(南三陸町)

気仙沼・本吉エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	1,816人	10,472人
行方不明者	453人	1,283人
全壊	11,626棟	82,911棟
半壊	2,749棟	155,086棟

(平成26年1月31日現在)

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成26年1月
プレハブ住宅	14,094人	12,052人
民間賃貸借上住宅	6,085人	2,951人
計	20,179人	15,003人

(平成26年1月31日現在)

災害公営住宅整備(事業着手)状況

	平成26年2月
計画戸数	2,970戸
着手戸数	2,162戸
完了戸数	0戸

(平成26年2月28日現在)

気仙沼・本吉エリアの被災直後と現在

気仙沼市鹿折地区周辺

鹿折唐桑駅付近に流された船が撤去され、周辺では、水産施設用地や道路などのかさ上げ工事が進んでいます。



気仙沼市魚市場周辺

震災によって地盤沈下した土地のかさ上げ工事が進み、水揚げが再開されました。



気仙沼市唐桑町只越地区周辺

津波によって道路が寸断されましたが、復旧が完了し、行き来できるようになりました。



南三陸町立志津川中学校から眺めた町並み

町全体が津波で被災しましたが、かさ上げ工事のために、たくさんの重機が稼働しています。



南三陸町志津川助作周辺

被災したJR気仙沼線の応急的な輸送確保のために運行しているBRT(バス高速輸送システム)の専用道路が整備されました。



南三陸町立伊里前小学校から眺めた町並み

手前には子どもの遊び場が整備され、奥では、漁港の復旧工事が進められています。



2013年11月23日 土曜日

元気発信中！気仙沼復興屋台村2周年祭 (気仙沼市南町)



「復興屋台村気仙沼横丁」の2周年祭。仮設住宅入居者向けの「宅配弁当事業」の出発式、地元アイドルグループSCK（産地・直送・気仙沼）ガールズのステージと盛り上がりました。

2013年4月5日 金曜日

俵の形のコンブ復活 ～気仙沼産握り昆布～ (気仙沼市鹿折)



春になると気仙沼市鹿折地区の海岸部ではコンブの天日干し作業が始まります。震災で大きな被害を受け養殖していた人は半分ほどに減り、高齢化も進んでいますが、とても手間の掛かる作業をいわずに伝統の味を守り続けています。

2013年12月8日 日曜日

ふるさとに響け！ 僕らの鼓動と躍動 (南三陸町)



震災で大きな被害を受けた郷土芸能の一つ「行山流水戸辺鹿子躍」。「祭具の提供など多くの人たちからいただいた応援に、元気な踊りでお返ししたい。日本中、世界中の人たちに感謝と元気を伝えていきたい」と、若い世代にしっかりと引き継がれています。

2013年8月24日 土曜日

被災地を見て、触れて学ぶ南三陸町「学びのプログラム」 (南三陸町)



南三陸町で「学びのプログラム」を運営している工藤望さん。「被災地に住む私たちが、大津波の怖さやその後の生活について話すことで、たくさんの人が自分の命を守り、防災について考えるきっかけになる」という信念のもと、震災の風化防止と防災意識の構築のために活動しています。

2013年6月24日 月曜日

復興へ！ 南三陸キラキラ丼を味わう！ (南三陸町)



震災前「町の活性化を担う食事」として開発されて、震災から半年後には復活した「南三陸キラキラ丼」。四季と旬に応じたそれぞれのバージョンがあります。

2013年7月12日 金曜日

生鮮カツオ水揚げ17年連続日本一！ (気仙沼市)



5月下旬から始まった生鮮カツオの水揚げが本番を迎えています。気仙沼魚市場は昨年まで生鮮カツオ水揚げ16年連続日本一を守り続けてきました。「17年連続日本一！」を目指す気仙沼魚市場には、今日も三重県や宮崎県、高知県などたくさんのカツオ船が入港してきています。

2013年9月6日 金曜日

町をつなぐ～「南三陸町てん店マップ2013」完成 (南三陸町)



「高台の分りにくい場所に移転し、点在してしまった商店がどこにあるのかを地図にして、観光客だけでなく町民にも震災前のように利用してもらいたい」と、地元の商店70軒が集まって「南三陸てん店マップ」を作成しました。

2013年10月19日 土曜日

共に創ろう！東北マルシェ (気仙沼市)



10月19日に開催された「第3回共に創ろう！東北マルシェ」。被災事業所や、震災後に起業した市民グループなど24団体が、地元の食材を使った加工品や手芸品などの販売を行い、震災から一歩ずつ前進している姿をPRしました。

2013年6月28日 金曜日

自助・公助・共助のある優しい社会へ (気仙沼市)

「まず目先のこと。一つ一つを困っている人の目線で考え、災害公営住宅の入居までの間の便利屋的存在でいたい。震災で傷ついた人が前を向いて歩むための見守りを続けたい」震災後に立ち上げられた「ボランティアステーション in 気仙沼」の菊田忠衛さんは住民同士が助け合う地域づくりに取り組んでいます。



2013年7月20日 土曜日

「子ども海広場」OPEN！そしてさらなる「つながり」の予感 (南三陸町歌津)

「また歌津の海で泳げる日が来るなんて——」笑顔の目にも光るものをこらえきれない地元関係者や支援者のみなさん。「長須賀つながりビーチこども海広場」が3年ぶりにオープンして、歌津に本当の夏が戻って来ました。



2013年10月28日 月曜日

第18共徳丸の解体終了と 不明者の捜索 (気仙沼市鹿折)

10月24日、気仙沼市の市街地に打ち上げられていた第18共徳丸の解体工事が終わりました。28日には現場周辺で震災不明者の集中捜索が行われました。



2013年10月30日 水曜日

出会いこそ支援。派遣職員大活躍！ (南三陸町)

宮城県の沿岸市町には、日本中から、たくさんの自治体職員の皆さんが「応援」に来ていただいています。愛知県豊川市から派遣いただいた篠原英明さんも、その一人。不慣れた土地で長期間滞るのは、とても大変なことです。町の多くの皆さんと交流を深め、ボランティア活動やさまざまなイベントなどにも積極的に参画しています。



2013年7月27日 土曜日

「まるかじり気仙沼飲食ガイド Web版」誕生！ (気仙沼市)



7月にオープンした「まるかじり気仙沼飲食ガイドWeb版」。地元の人の目線と足で探したお薦めのお店が、160店以上掲載されています。お店の営業状況などを調査したのは大学生やまちづくり会社、スローフード気仙沼会員の皆さんです。

2013年8月11日 日曜日

酷暑に負けず！ 第62回気仙沼みなとまつり開催 (気仙沼市)



8月10日と11日の両日、第62回気仙沼みなとまつりが開催されました。メインの「はまらいんや」踊りには51団体、約2600人が参加。約670mの区間を子どもから高齢者までそろいの華やかな衣装や法被に身を包み、約3時間にわたって熱く踊りました。

2013年11月28日 木曜日

「星空が一番近い港町気仙沼」を願い (気仙沼市)



あまり知られていませんが、気仙沼は環境省主催の「全国星空継続観察」で1位になったことがあるほどの「星空の美しい町」。この星空を守り、気仙沼の新たな観光資源に育てようと、気仙沼銀河学校の伊藤雄一郎さんは活動を行っています。

2014年1月27日 月曜日

復活！気仙沼の味！「ふかひれ濃縮スープ」 (気仙沼市魚浜町)



気仙沼と言えばフカヒレ！「ふかひれ濃縮スープ」を製造する水産加工会社は震災からの再建を機に工場を環境重視にリニューアルしました。総務部長の小野寺悦幸さんは「感謝の心を大切にし、気仙沼産原料にこだわった製品造りをしていきたい」と語ります。